

6月25日に行われた「全日本少年軟式野球選抜大会九州・山口県予選」では、中山さんは、明るい性格でみんなを盛り上げました。決勝戦まで勝ち進み、見事全国へと駒を進めました。

ボールを握れない悔しさ 乗り越え全力投球

小学5年生の頃にテレビで野球を目にしたとき「野球がしたい」と強く思った中山さん。父と一緒に見学した、赤池Jrベアーズですぐに野球を始めました。中学進学と同時に「田川ベースボールクラブ」に入部。指導する後藤智生監督は「性格の明るさと、ボールを投げたときの強肩が印象に残っています」と中山くんとの出会いを語りました。しかし、中山さんの野球人生は順風満帆ではなく、中学2年生の頃に肩を故障し、3か月間ボールを握ることができませんでした。「野球ができなかったときは、とても辛かったです」と当時を振り返る中山さん。その間も諦めず野球と向き合い、怪我を乗り越えボールを握ったときは「野球人生で一番嬉しい瞬間でした」と喜びを語りました。



中山 彪樹(方城中学校3年生)
平成21年3月9日、福智町方城生まれの14歳。伊方小・方城中学校。全日本少年軟式野球クラブチーム選抜大会に出場。身長168cm体重60kg 憧れの選手は巨人の中田翔選手。

日々精進を続け 再び最高峰の舞台へ

8月12日に滋賀県守山市で行われた全国大会1回戦では、東京代表チームに1点を争う緊迫した投手戦を展開。しかしながら、最後の一打が届かず、惜しくも2対1の惜敗となりました。後藤監督は、「今回は負けてしまいましたが、中山くんの野球人生にこの経験を活かしてほしい」と今後の中山さんの飛躍に期待を寄せています。最終回の打席で、一打同点の足掛かりとなる貴重なフォアボールを選ぶなど、最後まで諦めずチームに貢献した中山さん。今後の目標は「高校で、甲子園に出場し、勝ち進むこと」と新たな夢に向かって、今日も強くバットをふっています。

中山彪樹 Ayaki Nakayama

全日本少年軟式野球選抜大会に九州・山口代表として出場した中山彪樹さん 彼の中学最後の熱き戦いに迫ります。



林彩羅 Sara Hayashi

全日本中学女子軟式野球大会に福岡県代表として出場した林彩羅さん。全国大会への切符を勝ち取った林さんのこれまでの軌跡に迫ります。



過酷な練習で宿った 人一倍の負けん気

4人兄弟の長女として生まれ、小学1年生の時に「上野イーグルス」で兄2人が野球している姿に憧れ、野球を始めた林彩羅さん。「最初は、バットに球が当たらず、球も上手く投げられなかったのですが、練習するうちにだんだんと球も当たるようになってきた時はとても楽しかった」と野球を始めた当時を振り返ります。中学進学時、練習の毎日、友達と遊ぶことができず「野球をやめたい」と考えた時期があったという林さん。それでも「野球がしたい」という想いは変わりませんでした。そんなとき「福岡アストライアBBG」の平野俊治コーチからの誘いで「福岡アストライア」に入部。毎週土曜日は久留米で練習し、平日の木曜日以外は赤池中の男子野球部で練習を行うなど過酷な日々を過ごしています。「身体の差はありますが、気持ちだけは絶対に負けません」と人一倍の負けん気で練習に励んでいる林さん。そんな努力が実り、5月14日に行われた「全日本中学女子軟式野球大



林 彩羅(赤池中学校2年生)
平成21年7月6日、福智町上野生まれの13歳。上野小・赤池中学校。第8回全日本女子日本軟式野球大会に出場。身長145cm、体重40kg 憧れの選手は、SBの今宮健太選手。

会・福岡県予選」では、見事全国大会への切符を勝ち取りました。初初の全国で感じた緊張と確かな手応え

初の全国大会で緊張とワクワクが入り交じる中、8月19日開催された「全日本中学女子軟式野球大会」に出場。初戦の「埼玉スーパースターズF」(埼玉)と接戦を繰り広げましたが、8回のタイブレークで3対2のサヨナラ負けを喫した「アストライア」。林さんは「緊張でうまくプレイできず、とても悔しかったです。気持ちを切り替えてこの経験を無駄にせず頑張りたい」と今年の夏を振り返りました。今後の目標は「もちろん、全国大会優勝」と目を細めた林さん。これからも、夢に向かって全力投球を続けます。